

平成22年度

財務諸表でみる
うるま市の財政状況
(バランスシート編)

平成24年 3月
うるま市 企画部 財政課

はじめに

地方公共団体の活動は、利潤の追求が目的である民間企業と異なり、住民福祉の向上を図ることを目的としているため、その意義も民間企業とは一部異なったものとなっています。

しかしながら企業会計手法の優れた点を地方公共団体にふさわしい形で導入すること、またそれらを今後の市の財政運営に役立てようとするのが重要であると考えます。

またさまざまな方法により、財政状況を把握し市民の皆さまに分かりやすくお伝えすることも重要になっています。

このような点から、これまでの地方自治法の規定に基づいた予算・決算などの財政状況についての公表に加え、バランスシートを作成・公表しています。

作成方法については、総務省が示した方法に準じて作成しているため、民間企業で行っている複式簿記によらず、過去のデータをもとにした形で整理し、市の財政状況を資産・負債等のストック面から表したものになっています。

バランスシートの作成基準

(1) 普通会計を対象とする

普通会計とは、個々の自治体ごとに各会計の範囲が異なっている等の理由により、地方財政の統計上、全国統一的に用いられる概念的な会計区分です。

(2) 取得原価主義を採用している

取得原価主義とは、過去の実際の支出額を基礎とする会計です。実際の支出額に基づくことから、金額データは一義的に決定されます。

(3) 地方財政状況調査(決算統計)データを基に作成する

決算統計データは、実際の税等の投下額を示していること、すべての地方公共団体を通じて統一的にデータを把握できること、データの操作が比較的簡単であることなどの理由から普通会計バランスシート作成の基礎数値として用いられています。決算統計データは昭和44年度から平成22年度までの42年間を使用しています。

(4) 会計年度の最終日をバランスシート作成の基準日とする。

作成年度は、会計年度末の3月31日になります。ただし、4月1日から5月31日までの出納整理期間における出納については、バランスシート作成基準日までに出納したものとして計算しています。

1. 平成22年度 バランスシートの概要

バランスシートはこれまでに取得した土地や建設された施設、また市債などの決算時における残額を示すもので、左側に市の財産や権利あるいは現金、預金などの「資産」が記載されています。また、右側には資産を取得するための資金の調達方法により市債等の「負債」や国・県支出金等の「正味資産」が記載されています。

(単位:千円)

内 訳	H22年度金額	H21年度金額	前年度比
資 産 合 計	201,879,700	197,077,874	4,801,826
負 債 合 計	54,697,013	52,925,562	1,771,451
正 味 資 産 合 計	147,182,687	144,152,312	3,030,375

(資 産)

資産はこれまで行ってきた行政活動により形成されてきた経営資源で、主なものは道路や公園などのインフラ施設のほか、小・中学校、保育所などの土地、建物、設備等の有形固定資産です。ただ、これらは資産といっても原則として売却して換金することはできないところが民間企業との大きな違いです。

(単位:千円)

資産の主な内訳	H22年度金額	H21年度金額	前年度比
有形固定資産	185,295,217	183,041,208	2,254,009
基 金	3,608,626	2,530,641	1,077,985
貸 付 金	1,061,174	1,268,146	△ 206,972
現金・預金	6,502,389	4,015,333	2,487,056

(負 債)

負債とは、資産形成の財源として調達した資金のうち、将来返済が必要なもので地方債の発行残高、施設、設備購入の際の未払金及び職員の退職給与引当金を計上しています。

(単位:千円)

負債の主な内訳	H22年度金額	H21年度金額	前年度比
地 方 債	44,794,893	42,507,191	2,287,702
退職給与引当金	6,613,758	7,467,737	△ 853,979

(正味資産)

正味資産は企業会計でいう「資本」に該当しますが、その性格は大きく異なるため注意が必要です。

(単位:千円)

正味資産の主な内訳	H22年度金額	H21年度金額	前年度比
国・県支出金	99,643,102	98,602,192	1,040,910
一 般 財 源	47,539,585	45,550,120	1,989,465

民間企業では「資本」はその会社の体力を示すもので、その金額が多いほど健全であるといえます。しかし、自治体のバランスシートの場合は、調達資金の大半がすでに公共の資産を購入するために使われているので、それだけの資金が手元にあるわけではありません。公会計における正味資産とは、これまでの世代の税金などの負担や、国・県の補助金などを財源として今までに蓄積された資産で、後世代が引き継ぐ価値を表しています。

うるま市バランスシート（平成22年度）

（平成23年3月31日現在）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
【資産の部】		【負債の部】	
1. 有形固定資産		1. 固定負債	
(1) 総務費	18,718,161	(1) 地方債	44,794,893 ④
(2) 民生費	4,405,191	(2) 債務負担行為	
(3) 衛生費	1,362,029	①物件の購入等	0
(4) 労働費	114,951	②債務保証又は損失補償	0
(5) 農林水産業費	12,500,736	債務負担行為計	0
(6) 商工費	928,066	(3) 退職給与引当金	6,613,758 ⑤
(7) 土木費	96,926,271	固定負債合計	51,408,651
(8) 消防費	1,713,295		
(9) 教育費	48,121,823		
(10) その他	504,694		
計	185,295,217		
(うち土地)	79,364,607)		
有形固定資産合計	185,295,217		
2. 投資等		2. 流動負債	
(1) 投資及び出資金	755,076	(1) 翌年度償還予定額	3,288,362
(2) 貸付金	1,061,174	(2) 翌年度繰上充用金	0 ④
(3) 基金		流動負債合計	3,288,362
①特定目的基金	3,381,349		
②土地開発基金	227,277		
③定額運用基金	0		
基金計	3,608,626 ②		
(4) 退職手当組合積立金	1,480,456	負債合計	54,697,013
投資等合計	6,905,332		
3. 流動資産		【正味資産の部】	
(1) 現金・預金		1. 国庫支出金	90,697,744
①財政調整基金	3,595,782	2. 都道府県支出金	8,945,358
②減債基金	1,642,798	3. 一般財源等	47,539,585 ⑥
③歳計現金	1,263,809		
現金・預金計	6,502,389	正味資産合計	147,182,687
(2) 未収金		負債・正味資産合計	201,879,700
①地方税	1,442,256		
②その他	1,734,506 ③		
未収金計	3,176,762		
流動資産合計	9,679,151 ①		
資 産 合 計	201,879,700		

※債務負担行為に関する情報

- ①物件の購入等に係るもの
②債務保証又は損失補償に係るもの
③利子補給等に係るもの

1,362,381 千円
221,974 千円
0 千円

2. 附 属 書 類

(資産の部)

○有形固定資産明細表（平成22年度）

(単位:千円)

		取得価額 A	減価償却累計額 B	残存価額 A-B
総 務 費		31,579,210	12,861,049	18,718,161
	庁 舎 等	7,290,201	2,686,402	4,603,799
	そ の 他	24,289,009	10,174,647	14,114,362
民 生 費		7,351,520	2,946,329	4,405,191
	保 育 所	1,578,899	831,760	747,139
	そ の 他	5,772,621	2,114,569	3,658,052
衛 生 費		4,374,964	3,012,935	1,362,029
	清 掃 費	3,408,797	2,292,735	1,116,062
	ごみ処理	1,735,303	1,612,064	123,239
	し尿処理	5,924	5,924	
	そ の 他	1,667,570	674,747	992,823
	環 境 衛 生 費	189,491	165,811	23,680
	そ の 他	776,676	554,389	222,287
労 働 費		453,732	338,781	114,951
農林水産業費		30,309,106	17,808,370	12,500,736
	造 林	10,285	6,808	3,477
	林 道			
	治 山			
	砂 防			
	漁 港	10,814,790	4,276,512	6,538,278
	農業農村整備	13,947,714	9,595,426	4,352,288
	海 岸 保 全			
	そ の 他	5,536,317	3,929,624	1,606,693
商 工 費		1,601,250	673,184	928,066
	国 立 公 園 等			
	観 光	313,368	138,214	175,154
	そ の 他	1,287,882	534,970	752,912
土 木 費		151,093,419	54,167,148	96,926,271
	道 路	61,317,779	33,536,660	27,781,119
	橋 り ょ う	2,555,326	1,117,727	1,437,599
	河 川	908,768	359,423	549,345
	砂 防			
	海 岸 保 全			
	港 湾	125,627	77,293	48,334
	都 市 計 画	68,172,924	15,299,177	52,873,747
	街 路	23,886,696	5,578,342	18,308,354
	都市下水路	1,452,211	1,323,415	128,796
	区 画 整 理	13,419,397	1,641,410	11,777,987
	公 園	29,371,862	6,741,414	22,630,448
	そ の 他	42,758	14,596	28,162
	住 宅	17,902,533	3,719,076	14,183,457
	空 港			
	そ の 他	110,462	57,792	52,670
消 防 費		3,960,190	2,246,895	1,713,295
	庁 舎	1,322,987	275,550	1,047,437
	そ の 他	2,637,203	1,971,345	665,858
教 育 費		75,002,499	26,880,676	48,121,823
	小 学 校	34,233,206	12,814,293	21,418,913
	中 学 校	24,756,983	8,458,514	16,298,469
	高 等 学 校			
	幼 稚 園	2,652,246	1,151,081	1,501,165
	特 殊 学 校			
	大 学			
	各 種 学 校			
	社会教育	6,817,858	1,993,421	4,824,437
	そ の 他	6,542,206	2,463,367	4,078,839
そ の 他		1,016,052	511,358	504,694
合 計		306,741,942	121,446,725	185,295,217

○土地明細表

土地の主な目的別の内訳は次のとおりです。

(単位:千円)

利用目的	取得価格
道路・橋りょう	23,797,967
街 路	17,076,482
公 営 住 宅	7,232,805
小 学 校	2,254,113
中 学 校	1,808,026
そ の 他	27,195,214
合 計	79,364,607

3. バランスシートから見えること

I 資産の部

① 道路や学校などの資産価値は2,018億7,970万円

平成22年度末時点におけるうるま市の資産額は2,018億7,970万円となっています。そのうち住民サービスなどに供するために整備した有形固定資産は1,852億9,522万円となっています。

1. 有形固定資産	1,852億9,522万円
2. 投資等	69億 533万円
(1) 投資及び出資金	7億5,507万円
(2) 貸付金	10億6,117万円
(3) 基金	36億 863万円
(4) 退職手当組合積立金	14億8,046万円
3. 流動資産	96億7,915万円
(1) 現金・預金	65億 239万円
(2) 未収金	31億7,676万円
資産合計	2,018億7,970万円

そのうち有形固定資産の行政目的別の内容を見てみると、次ページの表となっており、本市の各部門の資産形成の状況を把握することが出来ます。つまり本市がどの分野を重点的に整備したか、今後どの分野の資産整備を行うべきか方向性を検討する際に利用できます。

平成22年度末時点の有形固定資産で最も割合を占めるのが、道路などの土木費となっており、全体の半数以上を占めています。その他にも学校校舎などの教育費などが大きな資産となっております。

【有形固定資産の行政目的別割合】

目 的	H22年度	H21年度
総 務 費	10.1%	10.7%
民 生 費	2.4%	2.4%
衛 生 費	0.74%	0.82%
労 働 費	0.06%	0.07%
農林水産業費	6.7%	7.0%
商 工 費	0.50%	0.48%
土 木 費	52.3%	52.0%
消 防 費	0.93%	0.73%
教 育 費	26.0%	25.5%
そ の 他	0.27%	0.30%
計	100.0%	100.0%

② 投資等は69億円

土地開発公社や財団法人に対する出捐金といったものは資産として計上され、それについては額面により評価、計上することとなります。また市では産業振興等を目的として貸付事業を行っている他、地域振興基金や庁舎等建設基金のように特定目的のために基金を持っています。退職手当組合の積立金を合わせた投資等の合計額は69億533万円となります。

【投資(出資)状況】

投 資 (出 資) 目 的	投資及び出資額
商 工 関 係	1億5,993万円
農林水産業関係	1億2,876万円
観 光 ・ 交 通 関 係	660万円
開 発 会 計	1,000万円
電 力 関 係	1,106万円
そ の 他	4億3,873万円
合 計	7億5,508万円

【主な貸付金内訳】

区 分	投資及び出資額
転貸債にかかるもの	10億2,387万円
商 工 関 係	600万円
開 発 関 係	3,130万円
合 計	10億6,117万円

【基金の状況(財政調整基金・減債基金を除く)】

基金名	基金残高
庁舎等建設基金	2億 289万円
水源地域基金	981万円
地域振興基金	26億597万円
学校用地取得及び学校施設整備基金	1億9, 465万円
人材育成基金	2, 336万円
土地改良施設基金	1, 243万円
地域福祉基金	1億3, 224万円
こどもゆめ基金	2億円
土地開発基金	2億2, 727万円
合 計	36億 862万円

③ 流動資産は96億円、うち手持ち金は67. 2%

平成22年度末時点における流動資産は96億7, 915万円ですが、そのうち現金・預金は65億239万円となっています。

現金・預金の内訳は財政運営の調整のための基金である財政調整基金が35億9, 578万円、将来の地方債返済のための基金である減債基金が16億4, 280万円、平成22年度歳入・歳出の差引である歳計現金が12億6, 381万円となっています。

流動資産には、現金・預金の他に「未収金」があります。これは市税や分担金・負担金などの債権が確定しているにも関わらず、滞納となっているものです。

【未収金の主な内訳】

費 目	未収金額
市 税	14億4, 225万円
国庫支出金	13億8, 568万円
県支出金	1億2, 911万円

※国・県の補助金に関する未収金は、その補助金に係る事業を翌年度(23年度)に繰り越したことによるもので、一時的に未収金として計上したものです。

Ⅱ 負債の部

④うるま市の借金(普通会計)は480億円

道路や学校などの社会資本整備に係る費用については、一時的に多額の資金が必要となることから、これらの費用をまかなうために借金をしています(市債)。その運用については財政状況を考慮し、財政を圧迫しないように将来の世代に過度の負担とならないように行っています。

平成22年度末時点におけるうるま市の借金の残高は、バランスシート上における固定負債の「地方債」と流動負債の「翌年度償還予定額」の合計で480億8, 325万円となります。

⑤すべての職員が退職した場合、退職金は66億必要(試算額)

平成22年度末時点で、市の職員(普通会計関係職員)のすべてが普通退職すると仮定した場合の退職金試算額を「退職給与引当金」として負債に計上しています。なお、その試算額は66億1,376万円となっています。

Ⅲ 正味資産の部

⑥資産合計 2,018億円のうち、475億円は支払済み

バランスシートにおける「正味資産」とは、有形固定資産などの「資産」から市債などの「負債」を差し引いたものです。有形固定資産などの整備には国・県の支出金や市税などが使われていますので、「国庫支出金」「都道府県支出金」「一般財源等」に区分し、計上しています。

この「正味資産」はさまざまな社会資本整備に要した費用のうち、すでに負担した金額をあらわしており、「これまでの世代によって負担された、次の世代に引き継ぐことのできる資産の正味価値」となります。

区 分	金 額	構成割合
国庫支出金	906億9,774万円	61.6%
都道府県支出金	89億4,536万円	6.1%
一般財源等	475億3,959万円	32.3%
合 計	1,471億8,269万円	100.0%

本市においては、主に国庫支出金等により構成されていることが分かります。

Ⅳ バランスシートによる財政分析

(1) 社会資本形成の世代間負担比率

社会資本整備の結果を示す有形固定資産のうち、正味資産による整備の割合を見ることによって、これまでの世代によってすでに負担された分の割合を見ることができます。また、負債に着目すれば、将来返済しなければならない分の割合をみることができると考えられます。よって、社会資本形成の財源が正味資産によるのか負債によるのかその依存割合を見ることで世代間負担の指標となります。

$$\begin{aligned} & \text{正味資産合計(a)} \div \text{有形固定資産合計(b)} \\ & = \text{(これまでの世代による)社会資本の負担比率(\%)} \\ & \text{負債合計(c)} \div \text{有形固定資産合計(b)} \\ & = \text{(後世代による)社会資本の負担比率(\%)} \end{aligned}$$

項 目	H22年度	H21年度(参考)
正味資産合計(a)	1,471億8,269万円	1,441億5,231万円
有形固定資産合計(b)	1,852億9,522万円	1,830億4,121万円
負債合計(c)	546億9,701万円	529億2,556万円
社会資本負担比率(a/b)	79.4%	78.8%
後世代による社会負担比率(c/b)	29.5%	28.9%

(2) 正味資産構成比率

一般企業の財務分析資料である自己資本比率に相当するものが、正味資産構成比率になります。正味資産は将来の返済や支出を伴わないものなので、この数値が高いほど市の財政が健全であるといえます。

項 目	H22年度	H21年度(参考)
資 産 合 計(d)	2,018億7,970万円	1,970億7,787万円
正 味 資 産 合 計(a)	1,471億8,269万円	1,441億5,231万円
正味資産構成比率(a/d)	72.9%	73.1%

(3) 流動比率

流動比率は、短期負債に対する企業の支払能力を評価するために用いられるもので、一般に200%以上が理想とされています。平成21年度に比べ比率が上がっているのは流動負債の増に比して流動資産(基金、歳計現金)が増加したためです。うるま市の場合割合が200%を超えており、当面の資金に余裕があると思われます。

項 目	H22年度	H21年度(参考)
流 動 資 産(e)	96億7,915万円	76億5,054万円
流 動 負 債(f)	32億8,836万円	29億5,063万円
流 動 比 率(e/f)	294.3%	259.2%

(4) 予算額対資産比率

バランスシートにおける資産合計はうるま市の社会資本形成の総額を表しており、下記の表により社会資本形成のために何年分の歳入が使われたかをみることができます。

この比率が高いほど社会資本の整備が進んでいると考えられます。逆にこれらの維持管理費も多く必要になると考えられます。

他の団体との比較の中で、その団体が資本的支出に重点を置いているか、それとも費用的支出の比重が大きいなど、歳出構造の特徴を示す指標にもなります。

項 目	H22年度	H21年度(参考)
資 産 合 計(d)	2,018億7,970万円	1,970億7,787万円
歳 入 合 計(g)	474億9,977万円	463億9,771万円
予算額対資産比率(d/g)	4.25	4.25

(5) 償却累計額

この率が100%に近づくほど、資産の更新時期が近づいていることを示し、維持費が大きくなり、更新投資の資金需要に関係してきます。

項 目	H22年度	H21年度(参考)
取 得 価 格(h)	3,067億4,194万円	2,989億859万円
減価償却累計額(i)	1,214億4,673万円	1,158億6,738万円
償 却 累 計 率(i/h)	39.6%	38.7%

うるま市一人当たりに換算すると・・・

うるま市一人当たりバランスシート

(平成23年3月31日現在 住民基本台帳人口 118,994人で換算)

(単位：千円)

借	方	貸	方
【資産の部】		【負債の部】	
1. 有形固定資産		1. 固定負債	
(1) 総務費	157	(1) 地方債	376
(2) 民生費	37	(2) 債務負担行為	
(3) 衛生費	11	①物件の購入等	0
(4) 労働費	1	②債務保証又は損失補償	0
(5) 農林水産業費	105	債務負担行為計	0
(6) 商工費	8	(3) 退職給与引当金	56
(7) 土木費	815	固定負債合計	432
(8) 消防費	14		
(9) 教育費	404		
(10) その他	4		
計	1,557		
(うち土地	667)		
有形固定資産合計	1,557		
2. 投資等		2. 流動負債	
(1) 投資及び出資金	6	(1) 翌年度償還予定額	28
(2) 貸付金	9	(2) 翌年度繰上充用金	0
(3) 基金		流動負債合計	28
①特定目的基金	28		
②土地開発基金	2		
③定額運用基金	0		
基金計	30		
(4) 退職手当組合積立金	12	負債合計	460
投資等合計	58		
3. 流動資産		【正味資産の部】	
(1) 現金・預金		1. 国庫支出金	762
①財政調整基金	30	2. 都道府県支出金	75
②減債基金	14	3. 一般財源等	400
③歳計現金	11		
現金・預金計	55	正味資産合計	1,237
(2) 未収金		負債・正味資産合計	1,697
①地方税	12		
②その他	15		
未収金計	27		
流動資産合計	82		
資産合計	1,697		

※債務負担行為に関する情報

①物件の購入等に係るもの

11千円

②債務保証又は損失補償に係るもの

2千円

③利子補給等に係るもの

0千円

※バランスシートを市民一人当たりに置き直してみると、資産は169万7,000円（前年度比+2万9,100円）、一方負債は46万円（前年度比+1万2,000円）になります。正味資産については123万7,000円（前年度比+1万7,000円）となっています。

バランスシート 内容・用語の説明

【資産の部】

1 有形固定資産

うるま市が保有する土地・建物・道路・公園など長期にわたって行政サービスを提供するために使用される資産のこと。昭和44年以降に支出した金額の合計額を取得価格としてみなして表示しています。また、土地以外は総務省のマニュアルに定められた耐用年数に応じて減価償却しています。

2 投資等

(1) 投資及び出資金

外郭団体等に対する基本金等の出資金のことです。

(2) 貸付金

うるま市が第三者に対し、貸付を行っている金額です。

(3) 特定目的基金

特定の目的の事業のために積み立てている金額です。

(4) 退職手当組合積立金

うるま市が加入している県市町村総合事務組合の持分相当額を計上しています。

3 流動資産

現金・預金及び1年以内に現金化することが可能な資産です。

(1) 現金・預金

① 財政調整基金

将来の資金不足に備えて、預金等により保有している積立金です。

② 減債基金

地方債の償還に必要な財源確保を図るための積立金です。

③ 歳計現金

各年度普通会計決算の歳入歳出差引額（形式収支）です。

(2) 未収金

年度末までに収入されなかった税金や貸付金等です。

【負債の部】

1 固定負債

1年を超えて支出が予定される地方債や債務負担行為、職員に対する退職手当予定額等があります。

(1) 地方債

地方債については、流動負債に相当する元金償還額を除いた額を計上しました。

(2) 債務負担行為

年度末において資産として引渡しをうけたものの支払いが済んでいないものです。

(3) 退職給与引当金

退職給与引当金については、年度末に職員全員が普通退職したものと想定してその支給額を計上しました。

2 流動負債

地方債のうち翌年度に返済が予定されている地方債や翌年度繰上充用金を計上しました。

【正味資産の部】

正味資産

市債と負債の差額で、これまでの世代が資産形成に負担した額です。

国の支出により形成されたもの（国庫支出金）、県の支出により形成されたもの（県支出金）、今まで支払われた税金等により形成されたもの（一般財源等）の合計額です。